

STRUM

シュトゥルム

第 24 号 平成 26 年 7 月 6 日発行

ワールドカップの熱戦に、つい朝から時間を忘れて見入ってしまい、慌てる日々です。イギリス館コンサートが今年も秋になりそうで、夏のイベントがないのは少し寂しい気もしますが、音楽を楽しむには、やはり秋の方がベターでしょうか。今号には 25 年度の会計報告が同封されています。皆様のご協力で TRAUBEN も今年度は早や 7 年目！ 熱い思いを内に秘めながらも、静かに一歩ずつ歩み続けて行きたいと思います。



近況報告

ヨーロッパ大陸（イギリス人はドイツやフランスのことを大陸と呼びます！）はすでに 30 度をこえる真夏日が続きワールドカップと共に、夏のお祭り気分になっているようですが、終電を延ばし、バスの運行数を増やし、大英博物館の前に大きなスクリーン、パブの前には緊急増員された警官、試合中は（移動客が極端に減るので）郊外への電車、バスの料金が半額なるという気合の入ったイギリス国民の必死の応援もむなしくワールドカップ予選敗退が決まったイギリスは天気も、時々顔を出す太陽の陽射しも何となく力のない、日焼け止めをぬるかどうか迷うところといった様子で、当初の、今年の夏は猛暑になる！という予報が本当かどうかはもう少し待つ必要があります。それでも公園の花、特にバラは最盛期を迎え、様々にいわくのある名前（たとえば English Rose の中でも美しさで知られる Jude The Obscure というバラは「日陰者ジュード」という、作中人物がほとんど死んでしまう陰惨なお話由来なのだそうですが、どうしてこの名前になったかはよくわからないそうです。）を楽しみながら、この季節のイギリスらしさを味わっています。



【伊都さん撮影】

先月から今月にかけては 3 回ほど友人の結婚式で演奏したり、大学院の卒業式で演奏したり、また来月もちょうど卒業や新天地への出発シーズンになるので、様々にプライベートなところで演奏する機会がありますが、お祝いに音楽をプレゼントでき、喜んでもらえることの嬉しさをかみしめています。

【伊都】

Ito Kanoh Live Concert

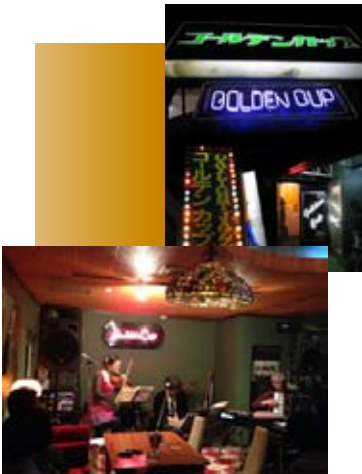


5 月 7 日、渋谷のセルリアンタワー東急ホテル 2 階 JZ Brat SOUND OF TOKYO で昨年に引き続きライブコンサートが行われました。ピアノは息の合った近藤紗織さんです。1st ステージはバッハやパガニーニなどクラシック曲の数々。

ドビュッシー「月の光」では、曲の元となったポール・ヴェルレーヌの同名詩が、2 面の大きなスクリーンに映し出されました。このスクリーンでは、当日限定、JZ Brat 特製の「Ito Kanoh Today's Special Cocktail "サンペグリーノ"」というメニューも映し出されびっくり。このカクテルの名前、実は伊都さんの大好きなミネラルウォーター「サンペレグリーノ」に由来しているのだそうです。

2nd ステージは親しみのある、映画や歌劇、ジャズナンバーで盛り上げました。次ページ「DVD Classic Collection」で以前取り上げた「ラヴェンダーの咲く庭で」、今号取り上げた「ニューシネマパラダイス」の曲、とても素敵でした。

ホテルサービスの洗練されたライブハウスで、お酒を飲みながら聴く伊都さんの演奏、それはもう優雅なひとときでした。ちなみに、お料理にも力を入れているお店で、「しらすと九条ネギのピザ」はソースが味噌ベースで美味しかったですよ。



本牧 Golden Cup 「POEMDION」

4月28日、本牧にある伝説のクラブ「ゴールデンカップ」で詩人中村剛彦さん、鍵盤楽器奏者中村新史さんとのコラボで行われた異色のセッション。ドイツの詩人シュトルム（同じ名前！）や、中村剛彦さんの詩に、シベリウス、バッハなどのクラシック曲を合わせました。また、アコーディオンに似た楽器「バンドネオン」とのコラボ「リベルタンゴ」は、まさにピアソラのオリジナルの音色！！ゴールデンカップを大いに沸かせました。テーブルチャージはヨーロッパ風に「投げ銭制」。「遠い昔の旅芸人のように詩と音楽を奏でる」一夜でした。

本牧地区センター開館 25 周年記念リレーコンサート

5月2日、伊都さんが小さい頃からよく利用していた本牧地区センターの開館25周年を記念して、本牧ゆかりの音楽家としてコンサートを行いました。「春の海」など本牧らしく海や港にちなんだ選曲と、軽食も振る舞われるアットホームなコンサートでした。伊都さんのMCでは、子どもの頃よく図書室の本を借りたり、卓球をしたり、すぐ裏の本牧山頂公園で遊んだエピソードなどが披露され、地元ならではの温かいコンサートになりました。

イギリス館コンサート、今年は10月！？

伊都さん情報によると、今年の夏の帰国は難しくなりそう、とのこと。昨年は9月に開催したイギリス館コンサート、今年は10月の始めあたりになりそうです。今年もタイトルは「秋の夜、ヨーロッパの風に吹かれて」ですね！ ご案内は8月末から9月始め頃になります。楽しみにお待ち下さい。

第12回 加納伊都ヴァイオリンリサイタル

2014年12月22日（月） 18：30 開場 19：00 開演

横浜みなとみらいホール 小ホール

今年も、祝日の前夜で足を運びやすい日程
カレンダーをぜひチェックしてください



DVD Classic Collection

「ニュー・シネマ・パラダイス」

ストーリーも音楽も映画史に残る名作

作品 No.19

1988年イタリア

あらすじ

戦後のイタリア、シチリアの田舎町で人々の愛する娯楽場は映画館「パラダイス座」だった。映画が大好きな少年トトは映写技師アルフレードと親しくなり、仕事を教えてもらう。ある日フィルムが焼け、パラダイス座は焼失。トトに助けられたアルフレードは失明した。それからトトが映写技師として新しいパラダイス座を支えていく。やがてトトは恋をするが…

見どころ

パラダイス座を舞台に、人々の映画への思い、トトの恋愛、アルフレードとの友情がエンニオ・モリコーネの美しい音楽にのせて繰り広げられる。5月のライブコンサートで伊都さんが弾いた「愛のテーマ」はこの映画の中の様々な「愛」を本当に美しく表現してくれた。この曲を聴く度に映画を思い出し、切なくも優しく温かい気持ちになる。ラストシーンは特に有名。

感想

テレビが家庭に普及していなかった頃、家の近所には小さな映画館があり、老いも若きも映画を楽しんだ時代を思い出す。幼い子を家に置いていけない母と見た西部劇、時代劇、大人の映画…うろ覚えだが、見たこともない世界にワクワクした記憶がある。イタリアも日本も同じだった。時代は流れ、町は変わっても、変わらないものがそこにはある。

*DVDはTSUTAYAの店舗でレンタル可能な作品のみをご紹介します

お詫び

一昨年より発行を延期していた10周年の記念冊子ですが、記念冊子としては、一旦白紙に戻すことになりました。伊都さんの意向を入れ、より良いものを目指し内容を練ってきましたが、帰国時の多忙な伊都さんと十分な話し合いの時間が持てず、時機を逸してしまいました。誠に申し訳ございません。ただ、記念の冊子ではなく、伊都さんの今後の活動に役立つような冊子は近いうちには是非作りたいと思っており、5万円の予算もそのままプールしておく所存です。会員の皆様にはご理解を頂きたく、どうぞ宜しくお願い致します。

編集後記 7月11日に公開の映画「パガニーニ 愛と狂気のヴァイオリニスト」が話題になっています。主演のデビッド・ギャレットは、本人自身「21世紀のパガニーニ」と称されるイケメンヴァイオリニスト。ロックとのクロスオーバーアルバムは全米1位のベストセラーを記録。（先日のコンサートで伊都さんも「パガニーニダイエット」という言葉があるほど演奏者泣かせだと言っていました）吹き替えなしの超絶技巧、5億円のストラディヴァリウス…となると、これは観ないわけにはいかないでしょう！ 〈ゆ〉

発行：加納伊都後援会 TRAUBEN

〒231-0835 横浜市中区根岸加曾台 15

TEL：045-622-6780

FAX：045-621-6423

Email：trauben@itokanoh.com

Homepage：itokanoh.com